

はな ものがたり

花物語

Hana Monogatari

Flower Stories

はしがき

Hashigaki

Flower Stories



すずらん

鈴蘭

Suzuran

lily of the valley

はつなつ

初夏のゆうべ。

しち ひと

うつく

おな

としごろ

しょうじょ

七人 の 美しい 同じ 年頃 の 少女が

てい

ひつじ かん

ある 邸 の 羊館 の ー

しつ だか

ものがたり

室に集 うて、 なつかしい 物語 にふけりました。

とき

その 時、 ー

ばん

ゆめみ

やさ

ひとみ

番はじめに 夢見る ような 優しい 瞳 をむ

こうた

じゅう

ちょう

けて 小唄 の ような 柔らかい 調であ

はなし

話をした の は、

ささしま

こ

笹島ふさ子さん という ミッション。

スクール

出の牧師の娘でした。

私がまだ、それは 小さい 頃の 思い出で
 ございます。

まち す
いっしょにその 町 住んで おりました。

おんがく きょうし

音楽 の 教師をつとめておりましたの、その

わたし はは まち す
私も母といっしょにその町 に 住んでおりました。

ころ　　はは　　たの　　じょがっこう

その 頃、母は 頼まれて 町 の 女学校 の

おんがく きょうし

音楽 の 教師 をつとめておりましたの、その

じょがっこう ふる こうしゃ いるいる れきし

女学校は 古い 校舎 でして 種々 な 歴史 の

がっこう

ある 学校 だつたそうでしたの。

はは くら こうどう ふる ふる こてんてき

母 はうす 暗い 講堂 で 古い 古い 古典的

ひ な まいにち か おし

な ピアノ を 弾き 鳴らして 毎日歌を 教えていたのです。

じゅぎょう まいにち ごご お はは

授業 が 毎日 の 午後 に 終わりますと、母はその

いざわ かぎ ぎんかぎ じぶ

ん

ピアノ の 蓄をして 鍵 をかけ、銀 鍵 を 自分

はかま ひも むす いえ かえる

の 袴 の 紐 に 結びつけて、家 へ 帰る の でした。

ひ こうちょうしつ よ

ある日のこと、校長室へ母は 呼ばれま した。

しろ こうちょう へん かお

白い ひげ の ふさ ふさ とした 校長は、変な 顔

もう

を した 申しました。

あなた こうどう かぎ たく

貴女 は あの 講堂 の ピアノ の 鍵 を お 宅

ゆ

へおもちになりますか？ たしかに)

と、母は(ハイ ^も 持つて ^{かえ} 帰ります。)

^{へんじ}
と 返事 を しました。

^{こうちょう} そうしますと 校長は、 ^{かお} ますますけげんな 顔をして、
(^{かぎ} ハハあ、^{あなた} たしかに ^{そと} 鍵は ^{ひと} 貴女 より ^{そと} 外 の 人 の
^て 手 に ^{わた} 渡さない の ですか)といいます。

^ゆ
母はおかしく■いまして、

^ゆ
(私より外 ■もピアノ ■は ■ちません)

^ゆ
といいました。

^ゆ
校長は 首 を 曲げて、何か 考え ておりましたが、

^ゆ
やが 母に 話 しました。

^ゆ ^{こうどう} ^{ふしぎ}
実は あの 講堂 の ピアノ の ことで 不思議 なことがあ
るのです。

^{まいにち} ^{ほうかご} ^{せいと} ^{みな} ^{校内} ^{かえ}
毎日 放課後、生徒が 皆校内から 帰つてしまつて
^{こうしゃ} ^{なか}

校舎 の 中は 静 かになつてゆく、寄宿舍 の 生
ゆ

徒が 自修 を 始める、すると、どうてす、人つ子
ゆ

ひとり 居るはず の ない あの 講堂 から、
ゆ

妙 なる ピアノ の 音が 響き 山るのです。

ゆ
はじめ は 寄宿舍 の 生徒 たちも、誰 かが 鍵

ゆ
を 先生 から 拝借 して 弾い ている の かと

ゆ
思 った の ですけれども、あんまり ■ の 宵 ごと

ゆ
に 続 くので 怪 しんだの です。

ゆ
それで 今日鍵 の ことを 念 の ために お 伺い

いた
致してみた の です。

ゆ
放課後 みだりに 講堂 で 勝手 に ピアノ を 鳴

ゆ
らさせる の も、校則 には ずれますからな)

ゆ
と、■まわしに■■■は■をうたがっているらしいので

ゆ
ず。■は■■■■はたしかに■■■の■を■分で■っ

ゆ

てかえります、どんな生■の手にも■■で■してやる

ゆ

ような、■

ゆ

■■なことはした■えがないのですもの、その■■の

ゆ

話を■いた時、どんなに■■に■ったでしょう。

ゆ

これは■かが■に■び入るのであろうか？でも■は私

ゆ

の手■に■るのにどうしてピアノが■けよう、母は■

ゆ

えると、

わからなくなりました。けれども、どうしてもピアノの

ゆ

■をあずかっている■■■として、■分のうたがいをはらさねばなりません。

ゆ

母は、どうしてもその■■■なピアノの■をたしかめ

ゆ

ようと■■しました。

ゆ

そして、その■の夕、私をつれて■びやかに女学校の

ゆ

■に入りました。私と母は■■の外の■に■をひそめ

ゆ

ておりました。それは夏の日でしたから、■のポプラや

ゆ

アカシヤの■■■が■■■かな■■■に■■■い■■■を■■■として、

ゆ

水をうったように■■■は■■■かでした。

ゆ

私は母の手に■■■きよせられて■■■をこらしていいました。

ゆ

ああ、その時、■■■の中で、■■■かにピアノの■■■のあく

ゆ

■■■がしました、そして、やがて、コロン。。。。。。コ

ゆ

ロン。。。。。。と、水■■■の■■■を■■■の■■■から、

ゆ

■■■りおとすようないみじくも■■■しい楽■■■の■■■は■■■から

ゆ

もれ■■■でました、それを■■■いた時、母の■■■は颯と■■■りました。

ゆ

その楽は■■■な■■■■■■の楽■■■に■■■■■■い■■■だったの

ゆ

です。やがてピアノの調はやみました。■■■■■■が■■■もな

ゆ

く■■■くと見る中(うち)に、すらっと■■■け■■■た■■■、

ゆ

■■■■■■の■■■ブロンドの■■■！

ゆ

■■■■■■に■■■のように■■■き■■■た一の外■■■少女の倅(おもかげ)！

ゆ

私は■■■わず、(あっ)と■■■をあげようと思いました、母は

ゆ

あわてて私を■きしめて■しました。

ゆ

かの外■の少女は■わぬ物■に人の■をみとめたので

ゆ

■したらしくちょっと■ち■まりましたが、やがて

ゆ

■の■の■に■なく■えゆくように■を見■いました。
た。

ゆ

母は■って、ただ、ため■をつくばかりでした。

ゆ

母は■日■■にたずねました。

ゆ

（あの■のピアノは学校でお■めになったものですか？）

ゆ

その時校■は■しました。

ゆ

（いいえ、あのピアノのは、よほど前のこと、■■の

ゆ

■人で■■へ■■として■ていたマダム＊ミリヤ

ゆ

という■人が■■でなくなられた■、■■として■■された
たものです）

ゆ

母は、これを■いて、ほほえみました。

ゆ

。。。。。。■日の■、いつもよりは、はるかに■ら

ゆ

かに■れふかく、かの■■のピアノはあやしき■手の

ゆ

■によって■ったのを、母は■■で■きました。

ゆ

あくる■、母が■■して■■に■■を■ってはいいり

ゆ

ますと、ピアノの■の上に、■りもゆかしい■■の

ゆ

花、■■い■■の一■が■いてありました。

ゆ

そして、その花の■もとには■いリボンで■びつけら

ゆ

れた一つの■の■がございました。その下に、うす

ゆ

■■の■■がはさんでありました。

ゆ

母は■く■を、おし■めてひらきますと、■ぺんの■

ゆ

の■い■く■■な■■■■で、

ゆ

■■をささぐ。

ゆ

■■われを見■したまえる■に。

ゆ

■きマダム＊ミリヤの子。オルテノ。

ゆ

と、しるされてあったばかりでした。母はその時■■■の

ゆ

花に■■■からの■■■物をして■■■ぐみました。

ゆ

そして、その日かぎりもう水■■■に、■■■ごとに■■■りし■■■

ゆ

しいピアノの■■■は■■■くことはありませんでした。

ゆ

■■■で■■■けば、その■■■き日に■■■■■■に■■■るため、その■■■

ゆ

を■■■ち■■■った■■■■■■の少女があったと■■■えられました――。

ゆ

(■■■■■■。。。。。。■■■き■■■■■■の美■■■の■■■――

ゆ

に、■■■しきかのピアノの■■■■■■の■■■オルテノ■■■を、私は

ゆ

今もなお■■■びます――)

ゆ

ふみ子さんのお話はかくて■■■りました。■■■をこらして

ゆ

■■■きほれていた■■■の少女たちは、ほっと――■■■に■■■■■■をつきました。

ゆ

■■■■■■■■■の■■■が■■■かにさすばかりで、■■■ひとり

ゆ

■■■■■■を■■■すものもなく、たがいに■■■れに■■■んだ■■■い

ゆ

■■■を見かわすばかりでございました。

Direct Translation

Early Summer's Evening,

Seven people of beauty same around the age of 17 there is a mansion of sheep home (soften) -

Gather in the room

[How is no used in a sentence?](#)

When no is used between two nouns, it's a possessive.

初夏のゆうべ。

Early Summer's Evening

When no is used between a Verb and Adjective

七人 の 美しい

7 Beautiful People

まほうの とびら

mahou no tobira

a magical door

Mahou (magic) is a noun, but it's being used like the adjective magical, which doesn't exist in Japanese. And while "mahou no hon" could be

"a book of magic" (filled with spells) or "a magic book" (itself enchanted),

the "of" interpretation for no does not exist in every case.

Saying no at the end of the sentence.